

2022

同友しずおか2

「入ってよかった」「続けてよかった」「企業も地域もよくなった！」

VOL.519



私の逸品

(有)富士清掃センター

真空乾燥炉 ～「活かすごみや」
としてニッチなリサイクル
への挑戦～



静岡県中小企業家同友会



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会3つの目的

1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

●社長はいつも孤独

●経営の成功体験しか聞けない

●目の前の仕事に追われる毎日

●指示待ち社員ばかり

●経営の悩みを相談する仲間ができた

●失敗談から勇気とヒントをもらえた

●将来の会社のビジョンができた

●自発的な社員が増えた

その答え、
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130
〒420-0057 静岡市駿河区南町1番16号 FAX/054-255-7820 E-mail/doyukai@shizuoka.jp

◆静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

◆ 企業づくり ◆

私たちは、関わる全ての人々が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくります

◆ 地域づくり ◆

私たちは、中小企業と地域が手を取りあい、人々の幸せが見える地域をつくります

◆ 同友会づくり ◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の^{きょうじ}矜持と努力を結集し、
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

2025年ビジョンの実践

【第8回】

「2025年ビジョンの実践」では、ビジョンプロジェクトメンバーが静岡同友会2025年ビジョンを自社の未来と重ね合わせ、いかに実践していくかをコラム形式で毎月掲載していきます。

温かさを
お互いの理解を大切に
実感する支部づくり

「同友会に出会ってよかった、入会してよかった」と思っていますでしょうか？
会員皆がそう思える団体でなければ声を大にして会員増強を唱えていても意味がありません。異業種の経営者の集まりだからこそ見えてくるものがあるはず。

同友会活動を盛り上げ、仲間を増やしていくにはどうしたらよいのでしょうか。「理解する」ことが必要ではないかと考えています。会員は一律同じ考えを持った人の集まりではありません。会社規模も違えば、個人の性格も違う。同友会に参加している目的や認識も違うと思います。そこで役員や個人の考え方・思いを強要するのではなく相手を理解し、受け入れることが重要だと思います。実際、自分が入会してから先輩方は年齢の分け隔てなく自身の意見も主張しますが、若手の意見にも聞く耳を持ち、フラットに意見をぶつけ合える環境を与えてくれました。それらを自社の運営にも生かし、社長が単独で決めていくのではなく、社員にも相談し議論をしてから物事を決めたり、社員からの提案を広く受け止めるようにしています。

人は受け入れられ、認められると、喜びや幸せを感じると思います。そんな温かい会であり続け、仲間を増やし組織を増強することで「入ってよかった、続けてよかった」となるような会運営ができればいいなと思います。

立道 浩幸氏（㈱蒼設計・御殿場支部長）

真空乾燥炉 ～「活かすごみや」として ニッチなリサイクルへの挑戦～

(有)富士清掃センター (富士支部)

代表取締役 大竹 政彦氏



大竹 政彦氏 (左側)



本業を支える大型トラック

二代目の大竹氏は創業者の想い「富士市で一番目立つ会社にする」を念頭に会社を経営しています。入会当初は「ゴミは無くないから仕事に困らない」と平気で言い、同友会でつ

自身の転機と同友会での成長

今回の私の逸品は、新たに導入した「真空乾燥炉」でニッチなリサイクルへ挑戦する(有)富士清掃センターの代表取締役社長、大竹政彦氏にお話を伺いました。1983年に創業、生ゴミから産業廃棄物まで多種多様な廃棄物の処理を行なう同社、取引先も個人から民間企業・富士市の委託事業まで幅広くあります。

新たなリサイクルを実現する「真空乾燥炉」

今回導入した「真空乾燥炉」は、炉内の気圧を落とし、蒸気で加熱して食品廃棄物等を乾燥させるものです。気圧が低いと低温で水分が沸騰・蒸発します。低い温度で水分を蒸発させるので、乾燥物の性状がほぼ変わらずに含水率をほぼ0まで落とすことができます。食品系廃棄物のリサイクルは肥料化・飼料化がメインですが、それ以外のリサイクルが可能となり、廃棄物を付加価値の高い商品へ変身させることができます。現在はこの設備を活用した新たなリサイクルを模索しているといえます。真空乾燥炉導入のきっかけは廃棄物処理費の値上げだったと大竹氏。「何でも値上げ傾向の中、

くった経営理念もそつとしまっていたそうです。創業者の逝去後、やっとスイッチが入り、同友会・会社に向き合うようになり、会社の規模は社長就任時の3名から7名に増え、売上も3倍になったといえます。

値上げしなくてもいい方法を考えた。当設備で廃棄物を捨てる物から売り物へ変えることで、廃棄物を出す側と商品を購入する側の両方から収入を得られるので、差し引きして両方の費用を抑えることができる」と話します。

基盤が整い「処分」から「リサイクル」へシフトチェンジが加速

「活かすごみや」「綺麗なごみや」「誇れるごみや」この三つを経営理念にしている同社は、

廃棄物処理業界のイメージの真逆を目指しています。「同友会の会員との学び、経営理念・経営方針の作成など、同友会で学んだから色々なことを考え、挑戦する基盤が出来た」と大竹氏は言います。社員と自分、顧客すべてのステークホルダーとのwin-winを目指し、会社の規模より中身の強い会社創りを社員と共に進めています。次なるニッチなリサイクルへの挑戦として、新たな廃棄物処理プラントの建設計画も着々と進行しているそうです。次から次へ



ニッチなリサイクルへの挑戦

(有)富士清掃センター

〒417-0034 富士市津田189-1

TEL: 0545-55-0174

URL: <http://fujiseisoucenter.web.fc2.com/>

創業 1983年

社員数 7名

入会年月 2009年3月

事業内容 産業廃棄物処理業、一般廃棄物処理業

取材・記事: 山田冬人氏
(株)エンジンイメント・富士支部
取材: 佐藤義幸氏
(松本工業(株)・富士支部)

と挑戦を止めない大竹氏、アグレッシブに進化する会社だと実感しました。

会員訪問記

七転び八起き！それでも続ける！
人の未来を作る仕事を！

(株)ES 放課後等デイサービスななごうめ
代表取締役 遠藤 光彦氏（富士宮支部）



遠藤 光彦氏

働くってなんだ!?
幸せってなんだ!?
富士市内で放課後等デイサービス事業を展開する(株)ES（イーエス）代表取締役の遠藤光彦氏は、意外にも障害者福祉事業とは全く違う畑を渡り歩いてきました。コ

ンタクトレンズの販売や医療系、はたまた工業系、自動車系等様々しかし、売上至上主義で不当な販売法も厭わない会社、生産管理がずさんな会社、リーマンショックで突然倒産になった会社、完全ブラックで非常識な会社など、理不尽かつ壮絶な経験の連続で「働

起業・閉業・再起業

くってなんだ!?」と悩み続けてきました。

そんな遠藤氏を見かねた奥様は勤める会社の社長に相談し、社長の支援や家族の推薦で、2013年に訪問リハビリマッサージ「心ほぐし」を開業しました。事業も軌道に乗って2015年には(株)ESとして法人化。しかし、世の中で介護費の不正請求が横行した事で業界に規制がかかり、同年閉業に追い込まれてしまいました。

遠藤氏はここで諦めず、人の縁をたどって仕組みや制度を学び、障害児を支援する「放課後等デイサービス ななごうめ」を2016年に開所。5年目の2019年には念願の第2施設を開所しました。

尽きない悩み 同友会入会

再起業も軌道にのせた遠藤氏ですが、社員と向き合う中でぶつかりあひも多く、経営の新たな悩みが尽きない日々でした。そんな中、同業の西尾亮貴氏（(株)富士山ドリムビレッジ・富士宮支部）の紹介で2019年に同友会に入会。惜しげもなく失敗や苦勞を語って



子どもたちが一歩踏み出す拠点に

くれる仲間の存在に「苦勞しているのは自分だけではない!」と元氣と希望を見出しました。

根性だけではやっていけないことも痛感し、経営理念を策定しました。遠藤氏の価値観も「稼ぐための仕事」から「良い仕事を通じて、社会に貢献するんだ!」地域あつての企業だ!という方向性にシフトしはじめました。小学生の低学年だけではなく小学生の高学年・中学生・高校生の世話もしていかなければならないと思ひ、高学年用の第3施設も設立するなど、さらに積極的な経営を推進しています。

同じ轍は踏まない 事業の柱も増やしつつ 幸せと満足を広げ 未来へ繋いでいく

過去、役所からの1通の法改正通達で閉業に追い込まれた悔しい経験もあり、今後は事業の柱を増やす研究、準備を重ねています。障害児でも人生という山を登っていく体力や知識・社会性を身につけていけば、自分の足で歩いていける。「ななごうめ」の屋号には、八合目に向かう一歩目を自分自身の足で踏み出してほしいとの想いが込められています。そして、社名の「ES」には「働く人の満足」とのテーマが込められています。働く人の幸せ、人の満足に繋

がる仕事を創る。子どもたちの、人々の未来を創る仕事を継続していきたくと話す遠藤氏が切り開く未来を、仲間として、共に見届けたいと切に思いました。

取材・記事...

田邊 元裕氏
(南カボスメディアワークス・富士宮支部)
望月 知洋氏
(エムスタイル・富士宮支部)



取材陣と遠藤氏（中央）

(株)ES 放課後等デイサービスななごうめ

〒417-0001 富士市今泉6-9-4

TEL : 0545-78-2284

URL : <https://nanagoume3.i-ra.jp/>

設立 2015年

社員数 正社員 : 3名 パート : 4名

入会年月 2019年4月

事業内容 放課後等デイサービス（支援を必要とする障がいのある子どもを放課後や夏休みなどに預かり、発達支援（療育）を行う）

会員訪問記

世界の人の役に立ちたい！
Web事業で経営者の夢を応援

夢トロッコ
代表 渡瀬 亜由子氏（浜松支部）



渡瀬 亜由子氏

湖西市から「世界の人の役に立ちたい」思いを持ち続けて独立開業した行動力の人、夢トロッコの代表である渡瀬亜由子氏をご紹介します。東海道五十三次の三十二番目の宿場である湖西市白須賀の事務所でお話を伺いました。事務所前で迎え入れてくれた渡瀬氏は笑顔が素敵な女性でした。

高校生から夢見ていた
経営者に

高校在籍時より、ビジネス書や経営に関する書籍を読むなど会社経営に興味を持っていた渡瀬氏。高校卒業後は証券会社に就職し、経理部門で5年間経理実務を積みしました。結婚後、専業主婦をしていた約5年の間も事業家への思いはあったそうです。そんな中で大切な友人の死と巡り合わせ、友人の力になってあげられなかった悔しさから、困っている人の役に立ちたいと考えるようになります。その後はスキルを身に着けるべく会計事務所・パソコンスクール・Web制作会社等で働き、自分に合ったビジネスを探していたところ、多くの方から経営改善の相談を受け、パソコンとWebを使って事業で苦しんでいる経営者を助けられないかと考えるようになったそうです。そしてWeb事業の未来を感じ、2014年に今の事業を立ち上げました。

「夢トロッコ」のめざすところ

「夢トロッコ」という社名には、経営者の夢を応援するという意味と、色んな人がトロッコ列車に乗って夢や希望を追えるような大きな枠組みを作りたいという願いが込められています。現在の主な事業は経営支援・Webマーケ



夢トロッコに乗って一緒に夢を追いかけてませんか？

成・Web資格習得支援・社員育成・Webサイト制作などです。また年配者向けのスマホ教室・パソコンの支援員（サポーター）育成などにも取り組んでいます。

挫折と二つの大きな転機

開業当初は決して順風満帆ではなく、ネット事業で挫折。当初は今と違うことにも色々々と挑戦しましたが、どれも軌道にはのせられず苦しんだと言います。そんな中海外支援にもともと興味があり、海外協力隊等の活動を模索する中で、2018年ジェトロのケニア研修である人と出会い2つの大きな転機が訪れました。一つはアフリカのケニアの視察を勧められたことです。持ち前の行動力で視察行きを決断。このケニア視察が大きな文化的衝撃、価値観の転機となりました。自然や動物達への配慮が足りなかったことを実感。心の豊かさや自然を大切にしたい、精神主体の社会づくりで地球に恩返

しをしていきたいと感じ、新たに動き出します。2018年、自宅にてパソコン教室を開始。傍らホームページ制作と地道な活動の中、もう一つのお誘いから2年後の2020年に同友会に入会し、これが2つ目の転機となりました。

同友会で経営者としての学び

渡瀬氏は、同友会で経営者の生の声を聴き、開業時からの思いや悩みを共有できたことに大きく救われ、経営のヒントを得られたと言います。また、「同友会での気づきや学びを生かしながら、2022年は長年お世話になった地元への恩返しの意味も込めて、地元の経営者応援を目的としたブラットフォームをWebで作作り、人材育成・経営支援が出来る事業をしていきたい」と熱く語りました。学生の時からの夢を、今実現に向け取り組まれているのだと感じました。

取材・記事：伊藤 正浩氏

（南浜松ロード・マインドオフィス 浜松支部）

夢トロッコ

〒431-0451 湖西市白須賀2884-2

TEL：053-579-3033

URL：https://www.yumetorokko.net

創立 2014年

入会年月 2020年2月

事業内容 webサイト制作、パソコン
スクール、広告制作

県知事表敬訪問

1月5日（水）静岡県庁にて、川勝知事はじめ、難波副知事、出野副知事へ新年の挨拶を行いました。井上代表、簗代表、松葉代表、秋山事務局長にて訪問し、2022年の展望をお聞きしました。コロナ禍での会員の挑戦や奮闘、中小企業が地域と人々を支えていること、また中小企業・小規模企業振興会議への継続的な関わり、今後も相互に情報交換しあい県経済の発展にむけて取り組むことなどを語りあえた機会となりました。



第10講

12月15日（水）

伝統文化を継承すること

講師…長澤 宗範氏

（長澤瓦商店㈱・静岡支部）

静岡市清水区で瓦・屋根工事や瓦小物・アクセサリーの販売を行う長澤瓦商店㈱。1999年から父の経営する長澤瓦商店に入社し、2018年1月に事業を受け継ぎ現在に至ります。しかし、決してその道中は順風満帆ではありませんでした。東日本大震災をきっかけとした瓦産業の衰退により経営状態も悪化、同氏は当時を振り返り「仕事量の減少を時代のせいにしていた」と振り返ります。転機は経営状態もどん底だった2017年、同友会に入会し経営指針を作成、作成の過程で「自分は何屋なのか？」との問いに対して非常に悩み仲間とも議論を重ねた結果、「瓦屋」になる信念が固まったといえます。2019年には娘さんが入社。2020年には法人化や新入社員の入社、災害時の全国ネットワークの構築など飛躍の年となり、経営指針書に書き込んだビジョンを次々と実現していききました。今後について「会社のブランディングに力を入れ、若い人がここで働きたいと思える会社になりたい」と語りました。



長澤 宗範氏

第11講

12月22日（水）

混沌の時代を楽しもう！

（VUCA after コロナ with コロナ??）

講師…下山 昇一氏

（有下山製作所・三島支部）

下山氏は3代目社長として自動車関連部品の製造業を営む一方で、人材開発・研修、就労移行支援事業所の経営も行っています。金融業や人材派遣業で働いた社会人時代、将来経営者になることを見据え、自らの成長のためにつらいことや大変なことに進んで取り組みました。社会人経験を通して、信頼の得方や、組織（チーム）の相乗効果、「視座・視野・視点」をそれぞれ持つことの大切さを学びます。家業に入ってから、社長とぶつかりながらも取引先からの信頼を得ることで少しずつ認めてもらえるようになりました。「混沌の時代だからこそ自分軸を持つこと、未来のやりたい自分からバックキャストイングして目標を立てることが大切」と語る下山氏。不確定で変動性に満ちているVUCAの時代は、常に新たなことをはじめるチャンスだとポジティブに捉えます。最後に学生に「自分を知り、他者を知り、人生という大きな視点で見て、今を楽しんでほしい」とメッセージを伝えました。



下山 昇一氏

第12講

1月12日（水）

日本一の沼津ひものを、世界へ、未来へ

講師…小松 寛氏

（有ヤマカ水産・沼津支部）

1912年に沼津で創業し、干物の製造・販売を手掛ける有ヤマカ水産。原材料の魚は鮮度の良さにこだわり製造しています。小松氏は大学卒業後、築地市場で4年働き、ヤマカ水産へ入社。当時の干物業界は工場が約半分にまで減少、自社の状況を知り経営の大変さを感じました。その後、販路開拓により売上が上がるも、国内の水揚げ量や魚の需要減少など厳しい環境に直面。その頃に同友会を知り入会、経営指針を創る会にも参加しました。仲間との出会いや議論を通じて自社の強みを認識し、当時の「干物に未来が無い」という考えが180度転換。「世間の干物のイメージを変えたい」思いのもと、自社商品の開発に取り掛かり、フレンチにも合う「ベツシユール」や大学と連携した干物など新しい定番商品を展開しました。最後に、ご自身の大学時代や築地で働く世界の水産物を勉強した経験から「多くのことに好奇心を持ち、勉強を通じて自分の夢を見つけてほしい」と学生にメッセージを送りました。



小松 寛氏

第13講

1月19日(水)

地域・感謝・商売

講師：土屋 順史氏

(有)土屋装飾・伊東支部)



土屋 順史氏

創業以来、伊東市で住宅リフォームを営んできた(有)土屋装飾。土屋氏は社会人を経て家業に入り、新しくイベント業をスタートします。独立を考えていたものの、承継者がいないことが分かった「会社の名前を地域に残したい」と家業を継ぐことを決意。父の想いをヒアリングし、自身の人生を思い起こし、経営指針書を作成。財務目標や事業戦略の盛り込まれた指針書を提出したことで金融機関とのやりとりがスムーズになったと話します。新規事業にも積極的に取り組む土屋氏。「地域にこれまで無かったが必要とされているもの」を提供することで、地域に感謝を返したいと話します。伊東に似た地域にあつて伊東に無いものを探し、少額耐震補強の工事やドローン土地調査などを始めました。今後の目標は55歳で引退し若い後継者に任せることだと土屋氏。「商売は人と人との結びつきで成り立っている。地域・社員・お客様・協力業者・自社への感謝を忘れずにさらに進化していきたい」と語りました。

第14講 (最終講)

1月26日(水)

NONUKESービキの海は忘れない

講師：杉村 征郎氏

(杉村精工(株)・志太支部)

河村 恵子氏



杉村 征郎氏



河村 恵子氏

1954年に起きた第五福竜丸被ばく事件、当時中学生だった杉村氏は仲間と行動を起こし、原水爆反対の署名運動を行います。この動きは大きな波となって全国に広がり、3200万名の署名が集まるとともに、政治的な問題から大きく取り上げられることになりました。杉村氏は「生産条件」より『未来の人達の生存条件』を考えるヨーロッパの人々から多くを学んだ。2021年1月に核兵器禁止条約が発効されたことは「一つの希望」と語りました。後半はビキニ事件の被害者であり、第五福竜丸元乗組員である大石又七氏の義妹河村恵子氏より、自らの実体験と大石氏が語り継いできたことを伝えました。偏見・差別に苦しんだ過去を乗り越え、未来の平和のため「語り部」になることを決意した大石氏は700回を超える講演や数々の著書を遺し、2021年3月に87歳でこの世を去りました。最後に河村氏より「自分の意見を持ち、議論ができる人になってほしい」とメッセージを送りました。

1月イントロセミナー

三代目後継者が語る、自社の未来

～青年部活動と企業経営は不離一体～

1月28日(金) 同友会事務局&ZOOM

オプザーバーや新会員にむけて同友会を知って頂く機会として、また仲間との交流の場として毎月開催しているイントロセミナー。1月は会場とZOOMのハイブリット形式で開催し、会員・オプザーバー合わせて14名が参加しました。静岡市で防水工事、屋根工事、外柵工事、総合エクステリア資材卸販売、レンタル収納事業提案などを行う(株)協和の渡邊且真氏(静岡支部)が登壇。後継者として会社に戻ったものの、社長や社員とのすれ違い、熱意が空回りし体も壊すなど悩んでいたとき、先輩経営者に誘われて参加したのが静岡支部の例会でした。そこで目標となる「かつこいい」経営者に出会ったことが自分を変える大きなきっかけになったと言います。今では同友会での学びを社内実践するべく、社員と共に部署のビジョン作成に取り組むなど一歩ずつ歩んでいます。パズセッションでは「自分自身を変えた出会いは何ですか?今チャレンジしていることはなんですか?」をテーマに、人との出会いや成長のきっかけを振り返り、企業変革への挑戦を話していました。次回2月25日(金)のイントロ



渡邊 且真氏

セミナーでは高田磨氏(天ふじ・富士支部)が報告します。ぜひご参加ください!

静岡同友会 2021年下期景況調査
HP・e.doyuより集計冊子を配信しています



景況調査集計冊子

2021年11月から12月にかけて実施した「会員企業の景況調査」では、370社の会員の皆様からご回答を頂きました。ご協力いただき、ありがとうございました。県政策委員会と静岡大学先生方のもと集計データをまとめた冊子を左のQRコードよりご覧頂けます。(HP・e-doyu掲示板からもアクセスできます)※以下本文より結果を一部抜粋。

全体：コロナ禍に翻弄される日本経済～希望を見つつ「我慢」の活動を～
製造業：高水準の仕入価格に販売価格への転嫁が追い付かない中小企業
建設業：売上と経常利益は改善も今後の業況判断は後退を見通す
流通・卸小売業：売上・経常利益が悪化し、業況判断は大きなマイナス値

今は我慢のときだが共に頑張ろう!

サービス業：アフターコロナ・ウィズコロナの時代に向けた積極活動が自社を強くする!
金融機関や行政との上手なコミュニケーションでさらに活発にしよう!

【項目】全体概況、コラム、①日本経済動向、②静岡県経済動向、③調査結果概要、④業種別景気動向、⑤地域別景気動向、⑥規模別景気動向、⑦経営指針成文化と浸透、⑧【特別調査】i. 新型コロナウイルス感染拡大の影響について、ii. 金融機関との関わりについて

2月・3月

DOYU CALENDAR

2月16日(水)～3月15日(火)

2月 16日(水)	沼津例会 (19:00 プラサヴェルデ&ZOOM) 志太例会 (18:30 ZOOM)
17日(木)	伊東例会 (19:00 ZOOM) 富士例会 (19:00 ZOOM) 浜松例会 (19:00 ザザシティ浜松中央館5階&ZOOM) 県共育委員会 (18:30 ZOOM)
17日(木)～ 18日(金)	中同協・第52回中小企業問題全国研究集会 (13:00 オンライン)
21日(月)	中小企業でも手軽に活用できるWebマーケティング (県広報委員会主催勉強会) (19:00 ZOOM)
22日(火)	県例会企画委員会 (18:30 ZOOM)
24日(木)	中遠例会 (19:00 磐田市総合健康福祉会館(iプラザ)&ZOOM) 県理事会 (15:00 ZOOM&同友会事務局) 全県フォーラム実行委員会 (17:30 ZOOM&同友会事務局)
25日(金)	会員経営者が語る「イントロセミナー～同友会 と私～」(19:00 ZOOM&同友会事務局)

28日(月)	三島例会 (19:00 ZOOM)
3月 1日(火)	県広報情報化委員会 (19:00 ZOOM&同友会事務局) 県組織増強委員会 (17:30 ZOOM)
3日(木)	正副代表理事会 (15:00 ZOOM&同友会事務局)
8日(火)	静岡例会 (19:00 ペガサート&ZOOM)
9日(水)	御殿場例会 (19:00 エピ・スクエア&ZOOM)
11日(金)	富士宮例会 (19:00 志ほ川バイパス店&ZOOM)
15日(火)	公正取引委員会との意見交換会 (14:00 ZOOM&同友会事務局)



《あなたのスケジュールノートに
必要事項をご記入ください》

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数 1059 名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
こばやし まさひろ 小林 昌宏	いろは経営相談事務所 経営コンサルタント(資金繰り支援、事業計画作成及び運用の支援、創業支援等)	富士宮	宇佐美健介
おおち ひろゆき 大地 啓之	(株)ネクスト 保険代理店	志太	宇佐美健介
すぎもと しんじ 杉本 信二	スタジオ スカイ 商業写真	浜松	江間 省豪

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyuからのご確認をお願い致します。

新会員さんこんにちは!

浜松支部 新入会員 スタジオ スカイを訪問

今月は杉本信二氏(スタジオ スカイ・浜松支部)をご紹介します。杉本氏は高校卒業後、コマーシャルスタジオでの修行を経て、1996年に独立、1998年にスタジオスカイを設立しました。企業の魅力を発信する商業写真を中心に、写真教室なども開催しています。同友会へは江間省豪氏(データマイン(株)・浜松支部)の紹介で入会しました。様々なコンテストの受賞歴もある同氏、「写真を通じて企業の魅力発信に力を注いでいきたい」と話してくれました。

訪問：江間 省豪氏(データマイン(株)・浜松支部)



杉本 信二氏

2月は3名入会、会員数は1059名となりました。皆様ぜひ同友会にお知り合いの経営者・後継者の方をご紹介します!